

# も 森 林 の 話

第34話  
檜山森林管理署  
佐藤 諒一

若手職員のコーナーです

檜山森林管理署上の国森林事務所に新規採用で赴任してから早3年目となりました。今回の記事では、私が森林事務所で働きながら見た道南地域の独特な森林や今年携わったナラ枯れ被害の調査のことなどを書いていこうと思います。

## 【ブナの森林・ヒバの森林】

北海道の黒松内低地帯以南には、天然のブナが生育しています。私が勤務している森林事務所管内にも山の稜線や奥地にはブナの天然林が生育しており、ときには驚くような樹幹の大きさのブナが点在しています。特に蝦夷梅雨時期のブナ林は幻想的な雰囲気漂います。



ブナの天然林（6月）

また、檜山森林管理署の名前の由来でもあるヒバ（ヒノキアスナロ）も道南地域には生育しており、主に奥地の斜面などで森林を形成しています。このように、主要な樹種が北海道の他地域とは異なった独特な森林を有していることが道南の森林の魅力だと思います。

## 【ナラ枯れの被害木調査】

「ナラ枯れ」とは、カシノナガキクイムシという昆虫によって媒介されるナラ菌と呼ばれる病原菌により、ミズナラやコナラなどナラ類を枯死させる樹木の病気のことを言います。

ナラ枯れの症状は、盛夏のうちに葉が枯れ赤茶色の樹冠になることや、根本周辺にはカシノナガキクイムシが樹幹に空けた穴から出たフラスと呼ばれる白く細かい木くずが散らばっていることが特徴です。

令和5年度にナラ枯れの発生が初めて北海道で

確認されました。私が勤務している森林事務所の近隣国有林でもナラ枯れが懸念されていたため、年度始めからナラ枯れの発生を注視してきました。

5～9月まではナラ枯れの発生を確認するため、複数地点で無人航空機（ドローン）を用いて定期的に周辺の地域を撮影し、枯死木の確認などを行っていました。

その後、ナラ枯れ被害を上空から広範囲に確認するためヘリコプターによる調査が実施された際に同乗する機会に恵まれました。そして、調査の結果では、国有林内にも10地点ほどナラ枯れが懸念される木が発見されました。

ヘリコプター調査で得られた座標や写真などをもとに、各懸念木を現地踏査した結果、4箇所6本がナラ枯れ被害木として確認され、現在、被害木の処理を進めているところです。



ナラ枯れ被害木

## 【おわりに】

ブナ林やヒバ林など長年変わらずに昔からある森林もある一方、ナラ枯れが広がり、これまでの状況から変化する恐れがある森林もあります。

貴重な資源である国有林の森林をこれからも守っていくため、日々の業務を熱意をもって遂行していこうと思います。